

岡山の「食」

中西 卓

パスクラサンという洋梨に似た果物を当地に来て初めて口にしたとき、とろける甘さと舌ざわりヒトメボレ、栽培農家が少ないためか秋の一時期にしか店に出ない。李（プラム）の甘酸っぱさが好きで庭に植えて5年目に実がなって喜んだが、翌年は毛虫がうじゃうじゃ食べるものに殺虫剤を撒く気がせず伐り倒した。ユズの苗木を植えて3年経つがまだ背丈に足りない、生きてるうちに実が生るのか寄ってくる蝶に聞いてみたい。近くに果樹農家やタキイ種苗に苗木を出荷する企業があって、圃場を通り抜けたり老若女性がいる売場を覗いて育て方を尋ねたりするが彼女たちは唯のアルバイトじゃない。ここから3kmほどに県の農水産総合研究所と農業大学校、広い試験農場があり、最近研修生や訪問者向けの木造2階建てのモダンな宿舎が建った。かつて岡大・高村教授がここへ通った話が「話の広場」にある。わが住まいから標高差15mにこのようなどかな風景がある。届いたばかりの「広報あかいわ」10月号の裏表紙が誂え向きなので次ページに借用する。

ブランドの桃や葡萄の生産地であっても手が出ないが、出荷外れを親しい農家が届けてくれるのが嬉しい。柿や栗、柑橘類、椎茸が身近にあるが、松枯れで茸がとれずあの香りが縁遠くなった。



甚だプライベートで恐縮ですが、右は拙宅の夕食膳です。最近60kgを切るようになった体重を更に下げようと高カロリーを避け量も減らしています。何を食べても美味しいのは有難いことです。

花崗岩由来の「砂」の川

赤磐市南西部(赤坂地域～山陽地域)には、砂川とその支流によって作られた平野と丘陵が発達しています。砂川は、仁堀東の竜天山麓を源流とし、市内を北から南へ向かって貫流して、岡山市東区で百間川に合流する長さ約40kmの一級河川です。砂川には周囲の花崗岩から流されてきた大量の砂が堆積しています。花崗岩は墓石や建築材に使われるぐらい硬くてしっかりした岩石ですが、長い時間、雨や風などにさらされると、少しずつ鉱物が分離して砂のように崩れていきます。これをマサ(真砂)と呼んでいます。砂川の一部はマサが厚く堆積し、川床の高さが周囲の平野より高くなっているところがあります(天井川)。砂川に堆積したマサは良質な庭砂となることから、かつては皇室へ税として納められていたこともありました。



砂川がつくる平野と丘陵(写真右が北)



ジオポイント

「白桃とパスクラサン」

マサは直径1mm前後の石英や斜長石と呼ばれる鉱物の集合体です。さらさらで水を通しやすいため、果樹の栽培に適しています。山陽地域の鴨前および西中は白桃の一大産地として知られ、環境省の「かおり風景100選」に選ばれています。また、地中海沿岸を原産地とするパスクラサンは、赤坂地域の由津里が国内唯一の生産地です。ゴツゴツした見た目と裏腹に、追熟後の香りと甘みは豊潤そのものです。赤磐市を代表する果物(白桃やパスクラサンなど)は、砂川流域の良質なマサに育まれているのです。



もっと知りたくなった人は、地球史研究所の先生に聞いてみよう!

▶地球史研究所 ☎956-3538 (※外出中で不在のときもあります)

今夕の NEWS 7 を見て、フィリピンで糖尿病が増えているのが現地で作る米が原因のようで新潟が農業指導するとか、経済援助も有難いが技術指導はもっと有難いですと。(この部分、MCIの私が取り違えているかもしれませんが。間違えがあればご指摘ください)

晴れの国“岡山の食”を思ったほどに著すことができませんが、ミーティングで何なりとよろしく
お願いします。